

令和8年5月27日

発注者責任を果たすための今後の建設生産・管理システムのあり方に関する懇談会

資料4

事業監理データ連携基盤検討会

R7年5月26日 発注者懇談会 建設生産・管理システム部会
・事業監理データ連携基盤検討会立ち上げを公表

6月4日 第1回検討会
・データ連携による効率的な事業監理の検討
・現時点における業務プロセスの課題

6～7月 業界団体等へ事業監理データ連携基盤に関する意見照会

9月2日 第2回検討会
・現場の課題を解決するための新たな働き方
・作業部会における検討事項

R8年3月16日 第3回検討会
・プロジェクトCDEの今後の方向性
(作業部会における検討体制・検討フロー等)

発注者懇談会

BIM/CIM推進委員会

事業監理データ連携基盤検討会

- 有識者 小澤教授、矢吹教授
- 事務局 国土交通省大臣官房技術調査課・参事官G、国総研
- メンバー 業界団体、整備局、都道府県

事業監理高度化検討作業部会

- 部会長：小澤教授
- メンバー：地方整備局、業務関係業界団体
- 事務局：参事官G

プロジェクトCDE検討作業部会

- 部会長：矢吹教授
- メンバー：地方整備局、システム・業務・工事関係業界団体
- 事務局：技術調査課

プロジェクトCDEを活用した事業監理アプリのイメージ

事務局たたき台(未決定) (今後部会で検討)

事務所毎
事業監理アプリ
[入力フォーム]

関連ファイル
(写真など)

従前の
書類作成が不要に

反映
(データマネージャ)

- 登録データの更新
- メタデータの補正や誤登録ファイルの整理
- ファイル差し替え・版管理
- 公開範囲や権限の調整など



参照
(プロジェクトマネージャ)



プロジェクトCDE
(地整毎)

データベース
(交換フォーマット)

メタデータ

関連

ファイル

API

発注者
データ

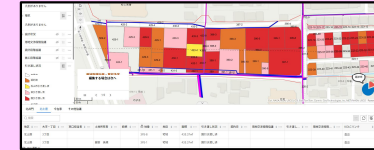
API

受注者
データ

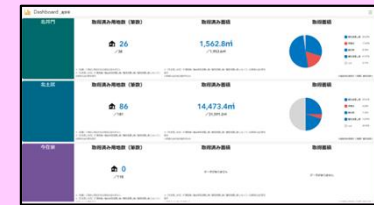
関係システムから自動入力
人間の入力・登録を必要最低限に

事務所毎
事業監理アプリ
[ダッシュボード]

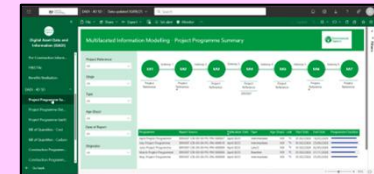
空間情報



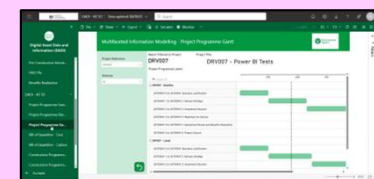
予算情報



懸案情報



工程情報



事業監理の現状の課題(事務所ヒアリング結果)

- 事業監理に必要なデータが手作業転記や媒体分散により整理されず、検索性、共有性、引継ぎ性が低下している。
- その結果、業務負荷やミスリスクが高まり、計画的かつ一貫した事業監理が実施しにくい状況であり、事業監理に有効なツールが十分に活用されていない。

■各業務プロセスでの課題

① データの分散と履歴管理の不備

- 文書・データが媒体ごとに分散し、検索性・共有性・引継ぎ性が低下
- 重要情報がメール・紙・Excelに滞留し、体系化された履歴管理が困難

② 手作業転記・個別資料作成による非効率

- 契約・工程・進捗・報告などで手入力が多く、ミスリスクと業務負荷が増大
- 会議用資料や本省提出様式の作成が手作業で、職員負担が高い

③ 事業監理ツール活用の不足

- 業務が分散・属人化しており、ツールの活用が進まず、一貫した事業監理に支障
- 試行段階に留まっており、本格導入・運用の仕組みが未確立

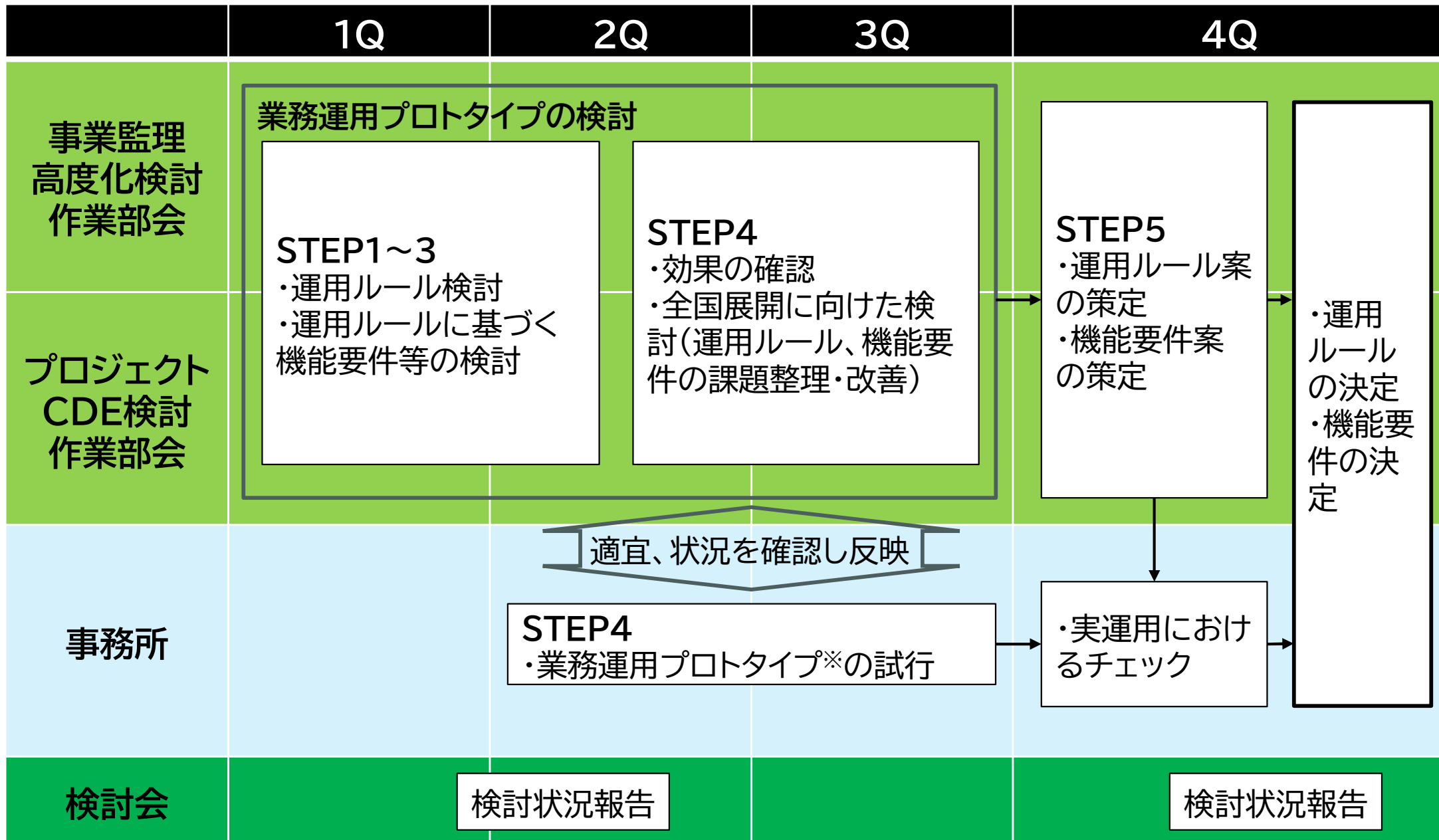
事務所の現状の課題への対応方針

- 事務所では、様々な事業監理ツールが導入され、事業監理の効率化・高度化が進行中
- 事務所へのヒアリングや試行実証等を通じ、業務プロセス(具体的なユースケース)ごとに既存ツール等の課題を把握し、直轄事業の特性に応じたCDE活用による効率的な働き方をCDE・アプリ・データで一体的に考えないと、事業監理の効率化・高度化に繋がらない
⇒スモールスタートで「業務運用プロトタイプ※」を試行し、効果を確認して標準化を図る



※業務運用プロトタイプ:既存ツールの組合せ、業務フローの適正化、役割分担を一体で設計し、実運用を想定して検証するパッケージ

ロードマップ(案)～令和8年度～



※業務運用プロトタイプとは、既存ツールの組合せ、業務フローの適正化、役割分担を一体で設計し、実運用を想定して検証するパッケージ

ロードマップ(案)～令和9年度以降～

